の方が普通だという指摘をした人が数人ある。to 不定詞をとることにやはり違和感があると考えてよい。

BOE の検索では、worthy to の形をとったものが18例あり、そのうち15例が to be called, to be the son, to be remembered といった受動形、あるいは be 動詞＋補語である。能動形の to 不定詞をとった 3 例のうち 1 例をあげる。

(12) They think that they are not *worthy* to hold the position and so should be grateful for any tolerance offered.
(彼らは自分たちは今の地位にとどまるにふさわしくないと考えており、どのような寛大な申し出でもありがたく受けるはずだ)

OED[2] の全用例中で1900年代の worthy to do の用例は次の 2 つである。

(13) a. As a slip catcher he was *worthy* to rank with R. E. and G. N. Foster.
[s. v. SLIP (1920)]
([クリケットの] スリップ外野手としては彼は R. E. フォスターと G. N. フォスターに肩を並べる価値がある)

b. She is quite *worthy* to have plays written uxoriously round her.
[s.v. UXORIOUS (1903)]
(彼女をめぐって、優しくされる妻の戯曲を書く価値がある)

1,600年代の全用例の中では56例、1700年代の全用例の中では22例、1800年代の全用例の中では18例といったように数が減ってきており、この to 不定詞をとる用法がすたれてきているという印象を受ける。

COD[9] は to 不定詞のパタンを認め、worthy to be remembered の例をあげている。*OALD*[5] には、

(14) She said she was not *worthy* to accept the honour they had offered her.
(彼女は、自分は申し出を受けた賞を受けるに値しないと言った)

の例がある。その他のイギリスの学習辞典にはこの種の例はない。

もともと worthy には 2 つの意味がある。(i)「尊敬や賞賛を受けるに値する」という意味の場合と、(ii)「(善し悪しには関係なく) 何かをする (あるいはされる) 資格がある」という場合である。(ii)の意味の場合には、現代英語では worthy of が普通であるが、まれに to be/to do が使われることがわかる。

このように、リストされた形容詞はそれぞれそのまま同じような統語的な特徴をもっているというわけではない。しかも多くの形容詞は多義的であるから、どの意味でどの統語特徴をそなえるのかがわかるようにする必要がある。

2.2.2.2 *furious*-type の形容詞

安井ほか (1976 : 247) に *furious*-type の形容詞のリストがある。これらは、

(15) John is *furious* to hear about it.

のように、「人間主語をとり、その主語の感情を表わす。不定詞補文は、その感情の生じる原因や理由を表わしていると考えてよい」(p. 245) とされている。統語的な特徴がいくつかあげられているが、リストの中で少なくとも bored, confused, consoled, heartened, humiliated, hurt は to 不定詞あるいは that 節をごく普通にとることはない。bored について BOE には to 不定詞をとった例はない。また各種の辞書類にもない。インフォーマント調査では、

(16) 8-2-7 John was *bored* to hear her talk.

のような結果である。あるアメリカ人の言語学者は、出来事 X と出来事 Y が因果関係として成り立つためには X→Y か、X←Y の順の因果関係が成立していなければならず、原因となる出来事は結果の出来事が始まる前に達成されていなければならないのに、(16)ではその関係が成立していないと言う。(16)を容認するインフォーマントも John was *bored* at/by/of her endless talk. の方が良いと言う。

bored は furious, amazed などとは違って、主語の「感情」を表す形容詞でなく、後に述べる「不完全記述」の「精神状態」を表し、その精神状態が何によって起こされたかを前置詞句で表すことになっているものと思われる。

confused, hurt も *furious*-type の形容詞としてリストされているが、これらも普通は to 不定詞を従えることは極めてまれである。BOE の調